

## 目指すは初代王者

石川ミリオンスターズ監督兼内野手

後藤 光尊 (平成9卒)

ごとう・みつたか／八郎潟町出身。秋高在学中はエースとして活躍。3年時の春、甲子園に出場。2001年ドラフト10位でオリックスに指名され、主に内野手として楽天時代を含め15年間プレーした。NPB通算1265安打95本塁打。2020年オリックスで打撃コーチを務め、昨シーズンは石川ミリオンスターズの野手コーチとして奮闘した。今シーズンから第7代監督としてチームを率いる。



初代王者を目指しノックバットを振る後藤監督

石川ミリオンスターズは今季から新設された日本海オセアンリーグに加盟しました。ファンにとつては全4チームの試合を1日で見られますし、開催日も土・日曜日なので見に来やすいでしょう。観客が増えればわれわれもモチベーションがアップします。年間試合数は減りますが、その分、1試合の重みが高まり、勝ちにこだわった白熱したプレーを披露できると思います。

昨シーズンからチームを指導しある程度は聞いていましたが、独立リーグの環境の厳しさは想像以上でした。練習場所も時間も十分ではなく、用具やマシンも限られている。その中で選手はNPB(日本野球機構)が運営する、プロ野球12球団を目指して必死に奮闘していました。その思いに生半可な気持ちでは応えられないと、こちらも鉢巻きを締めなおす気持ちで戦います。昨季は25勝34敗で西地区4チーム中3位。チーム防御率はリーグ2位と健闘したものの、チーム打率は

リーグ最下位と振るいませんでした。しかし、数字だけを見ると打者がふがいないように映りますが、野球は取られた点数より取った点数が多いチームが勝つ競技。投打どちらかに責任があるわけではなく、やはりチーム力が及ばなかった結果でした。もちろんその責任は選手ではなくわれわれの指導力不足に他なりません。

NPBと石川ミリオンスターズ選手の違いとは、技術的な差はそれほど大きくありません。ほとんどの選手がNPBに入ってもおかしくない素質を持っています。違うのは野球に対する考え方です。NPBの選手はうまくいかななくても当たり前と分かっているのに、すぐに結果が出なくても愚直に同じ練習を続けられませんが、独立リーグの選手は諦めてしまう気がします。逆に言えば、野球への姿勢を改めるだけでもNPBに近づくとも言えます。練習する上で特に選手たちに心掛けてほしいポイントは、これまで培ったものを疑う勇氣を持つてほしいということです。

一般的に打撃は上からたたけといわれますが、オリックスの杉本裕太郎外野手は真逆のスイングで本塁打王になりました。何が足りないから独立リーグにいるわけで、今までのやり方にこだわらず野球に取り組んでほしいと思います。NPBに入るために必要なものは、試合でしっかりと実績を残すことよりも、自分を売り込むアピール力が求められます。また、しっかりとあいさつができ、言葉遣いも丁寧で身だしなみが整っ



「これまで培ったものを疑う勇氣を」と語る後藤監督

ているなど、人間として成熟していることが欠かせません。そういった素養は、NPBに入れなくても、社会に出たときに役立つでしょう。

私のプロ入りへの道のりは決して順調ではありませんでした。入団後でもできる限りのことを試して何とか食らいついてきました。そんな体験談も選手に伝えていけたらと思います。今シーズンより現役復帰をします。選手が試合に出て活躍するのが一番ですが、ファンの皆さんが喜んでくれるなら「代打、俺」ということもあり得るかもしれません。もしそうなっても体が動くように、選手に交じってトレーニングを積んでいます。

石川ミリオンスターズはBCリーグが発足した2007(平成19)年に優勝した「初もの」に強い球団ですので、プレッシャーもありますが、初代王者になるチャンスは1度しかありません。頂点を目指し、チーム一丸となって頑張りますので、ぜひ球場にお越しいただき、声援を送っていただければ幸いです。